

用務員のすすめ



著 須藤 彰
(用務レンジャー)

はじめに

初めまして。本書を手に取っていただき、ありがとうございます。

昨年度まで25年ほど東京都内の学校で用務員をしておりました「用務レンジャー」こと須藤彰と申します。

この本ではあまり知られていない「用務員」という職業を紹介しよう思います。

学校は、独特の世界であり、一般社会とは少し違った価値観で物事が進みます。学校の実際をご存知ない皆さんに「用務員とはこんな仕事です」と紹介するのが本書の意図です。

「あー、そういう学校にそんな人いたなあ。何やってるかよく分からなかってけど…」

という皆さんに、気軽に、そしてざっくりと用務員について知つていただけるよう、一年の流れで話を書きました。

業務そのものについては、あえて深くは掘り下げておりません。

用務員の立ち位置であったり、やっていることをイメージしていただけたらと思います。

この職に就いて25年。それ以前はヘアメイクやイベント業を生業にいておりましたが、バブル崩壊後仕事がなくなり、私は、この仕事に転職してきました。

勤め始めた頃は「私もこれからはただの清掃員か…」などと思っておりましたが、いやいや、徐々にこの仕事の面白さにハマり、数年後には自ら「用務」のプロフェッショナルを目指すこととなりました。

時に植木屋、時に水道屋、時に電気工事士、時にペンキ屋などなど。

この本で学校の清掃員という枠組みを超えた「用務員」という職業を知っていただけなら幸いです。

まずはこんな話から…。
気楽に読んでいただければ、幸いです。

用務レンジャー ストーリー（1）

『アイ アム ア ヒーロー』

「助けてください！」

ある日の午後、下校時間が過ぎた頃、子どもたちが私を訪ねてきた。

話を聞くと、前日に脱走して行方不明だった《クラスで飼育している亀》が発見されたのだが、それがよりもよって女子トイレの和式便器の中だというのだ。

「へ？先生に言って拾って貰えばいいんじゃないの？」

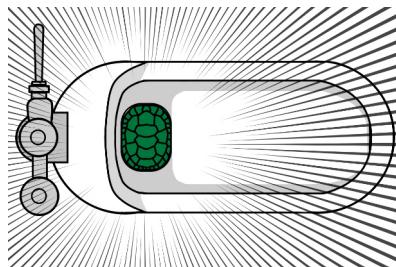
そう、私は答えた。

子どもたちは、それがダメなんですと言うばかり。

トイレに着くと、他の子どもたち数人もトイレの外で群がり、先生も途方にくれていた。

それは結構深刻な状況だった。

亀は和式便器の四角い排水口にピッタリと収まっていた。



こんな風に挟まっていた

あまりに大きさがピッタリすぎて身動きできない状態になっていたのだ。もう少し大きければ落ちても斜めになってハマらなかつた

だろうし、もう少し小さければ手を入れて救い出せもしただろう。

全く同じサイズで上からスッとハマったせいで手のに入る隙間もなければ、つかむこともできない。

背中をつかもうにも甲羅は滑ってつかむことができない。

私は状況を理解し、とりあえずその場を預かり、子どもたちを下校させることにした。

ひとりになった私は女子トイレの和便器の横にしゃがみ込んで考えた。

さて、どうしたら取れるのだろう。

思い切って、水を流してみたらどうなのだろう？

水圧で亀の位置が少し変わり、手が入るようになるかもしれない

しかし、万が一、そのまま流れて行ってしまったら、子どもたちはどう思うだろう。

子どもたちの顔が脳裏をよぎった。

「どうして流しちゃったんですか！」

泣き叫ぶ子も出るかもしれない。

トラウマになって、夢を見る子も現れるかもしれない。

だめだ、その結末は見たくない。

便器を壊して救うことができるか？

しかし何をどう壊せば亀を救える？

壊してどうにかなるものもあるまい。

隙間は全く無い様に見えるが…。

学校にある道具で何か使えないか？

箸？

定規？

例えば、平らな火鉢で挟んでUFOキャッチャーのように垂直に持ち上げるのはどうだろう？



火鉄

可能性はあるかもしれない。

急いで火鉄を探してトイレに戻ってくる。

亀は微動だにせずに、そこにいる。

というか、身動きできない。

火鉄の両端を差し込んでみる。

甲羅の上の部分をかするだけで力が入らない。

亀の胴体の下までは火鉄も入らない。

滑るし、つかむことができない。

だめだ、上から火鉄を差し込んでつかむのは無理だ。

そこで、はたと思いついた。

火鉄を両端に差し込むのは無理でも、片方だけなら入るのではないか？

U字型の火鉄を両手にもち、広げて真っ直ぐに伸ばしてみる。

火鉄の片方を亀の脇腹へゆっくりと差し込んでみる。

両脇には入らなかったが、片方なら微かに隙間ができるで脇に滑り込ませることができた。

さあ、どうする。片方では持ち上げられない。

試しにテコの原理で亀を少し斜めに持ち上げてみる。

動いた！

少しづつ、少しづつ、亀の甲羅が割れない様に片側を持ち上げてみる。

よし、可能性が出てきた。

斜め45度まで動いたところで、便器に手を突っ込み亀をつかみ出した。

やった！救出成功。

トイレの洗面台で亀を洗う。

亀は無事だ。

私は、誰もいないクラスへ戻り、飼っている水槽に亀を入れた。

今度は脱走しない様に、上に蓋をしっかりとぶせ、重石の代わりにそばにあった辞典を載せた。

これで脱走はできまい。

その日の業務はそれで終わった。

翌日。

噂は瞬く間に広がり、亀を飼っていたクラスだけではなく、全校児童が亀の救出を知ることになる。

廊下を歩いていても、校庭を掃除していても、代わる代わる子どもたちがやって来て

「亀を助けてくれてありがとうございます！」

「亀を救ってくれてありがとうございます！」

「亀を救ったのは用務員さんですか？」

「亀を助けたって本当ですか？」

「ありがとうございます！」

次から次へと声をかけてくれる。

「私は浦島太郎か…」

残念ながら、亀は竜宮城には案内してくれなかつたけれど、私はその日、学校中の子どもたちが目をキラキラ輝かせて見る唯一無二の「ヒーロー」になった。

そう、私は「用務レンジャー」
クラスの亀を救った男。子どもたちのヒーローだ。
そして今日も子どもたちのために仕事に励むのだ。



用務レンジャーイメージイラスト

目次

『用務員のすすめ』

はじめに	1
用務レンジャー ストーリー (1)	3
『アイ アム ア ヒーロー』	3
目次	8
用務員の一年 (前半)	9
四月	9
五月	9
六月	11
七月	12
八月	13
九月	14
用務レンジャー ストーリー (2) ..	16
『トンビが雷鳥を産んだ日』	16
用務員の一年 (後半)	19
十月	19
十一月	19
十二月	20
一月	21
二月	22
三月	23
用務レンジャー ストーリー (3) ...	25
『クリスマスイブの出来事』	25
あとがき	28
著者紹介	31

用務員の一年（前半）

■ 四月



四月、ピカピカの一年生が入学してきます。

小学生も中学生も一年生は、初々しくてかわいいです。

私たち用務員もその出迎えの準備に追われます。清掃はもちろんのことですが、入学式の準備、来賓の接待なども私たちの仕事です。

先生たちは入学してくる子どもたちや新学年になった子どもたちの対応で忙しく小さな見落としも出てきます。各教室にゴミ箱が準備されていなかったり、児童の荷物掛けの数が足りなかったり。

学校中を見回り、さまざまな形でそれをフォローするのも私たちの仕事のうちです。学校の中では先生も用務員も事務職員も、皆で学校を運営していく一つのチームとなって仕事を進めていきます。

■ 五月

カラスの卵を見たことがありますか？

梅の花がちらほら咲き始めると、カラスが縄張りを巡って喧嘩を始めます。それが落ち着いて、縄張りが決まると、カラスは巣作りを始めます。まあ、きっとそんな感じなのだろうなと想像しているのですが…。

巣作りの土台にするのが針金ハンガー。掃除をしていて木の下にハンガーが落ちていたら、見上げるとはるか頭上にカラスが巣を作り始めていたりします。

針金ハンガーで土台が出来るとその上に小枝を集めて巣の形を作ります。最後はシュロの皮など柔らかい素材を集めて敷き、巣の完成。

(だと思います。これもカラス本人じゃないのでなんとも言えませんが…見た目での話です。)

生き物って凄いなあと思います。

で、カラスの卵の件ですが…。

次の写真はとても背の高いヒマラヤ杉のてっぺんに作られたカラスの巣を専門の業者さんが登って取ってくれた時のものです。



カラスの卵はこの時初めて見ました。

綺麗なエメラルドグリーンでマダラ。

一番イメージしやすいとしたら、アイスクリームのチョコミントみたいな感じ。綺麗です。

こんな仕事をしていない限り見られないものですね。

■ 六月

ザクロの花が咲くのはこの頃です。

ザクロの花がポロンと落ちた姿は、ちょっと見、「タコさんウインナー」によく似ています。



ザクロの花



外掃きをしていて、一瞬、誰かがお弁当をひっくり返したのか？と錯覚してしまいます。

持って帰ってきて、子どもたちに見せると、「何？何？」と大受けです。

ザクロの木はトゲがあるので、要注意ですが、学校に一本あると、楽しみの一つになります。

■ 七月



七夕。

子どもたちが願い事を短冊に書き、それを飾ります。

学校によっては笹をご近所にもらいに行くこともあります。

リヤカーに何本か積み込んで、一般道を引いて歩いてきたり、そういう仕事も用務の仕事になっていたりします。

子どもたちの願い事を読むのが私の毎年の楽しみの一つです。

願い事の多くは「ケーキ屋さんになれますように」や「サッカー選手になれますように」などの自分の夢を書くもの。そして「〇〇ゲームを買ってもらえますように」などの欲しいものをかくパターん。

時代によって興味のあるものの移り変わりが分かって興味深いです。

そして稀に思わず吹き出してしまうような素晴らしい『願い事』に出会えます。

「はやくクリスマスがきますように」

「おいしい みそラーメンが
ちょうどいいりょうに たべられますように」

「ママがなんでもうんといってくれるように
なってほしい」

子どもたちの願いが叶うといいなと思いながら、掃除をしています。

■ 八月



夏休み中は子どもたちがいないので、用務にとっては、普段できない仕事をするチャンスです。

この点がマンションやビルの清掃従事との大きな違いだと思います。夏休みがあることによって、仕事に大きなメリハリが生まれます。

学校に勤めていると、よく周りの人たちからは、「夏休みはお仕事がお休みでいいですね」と言われたりするのですが、実はその逆で、私たちにとっては最も忙しい期間となっています。

教室のエアコンフィルターや扇風機、高窓の清掃、児童生徒の下駄箱の清掃、傘立ての清掃。そして廊下の床洗浄、ワックス掛けなど。作業は多岐に渡り、ともすると終わらなくなってしまうので、

計画的にスケジュールを組んで働いています。

夏休みが終わり、子どもたちが帰ってくる頃には、学校は新品のようにピカピカになっています。

毎年、子どもたちの驚く顔を楽しみにして、夏の作業を行なっています。

▪ 九月

私の勤めていた地域の小学校では、秋になると授業で3年生が大根を育てていました。

学校農園のある学校は夏休みが明けると子どもたちが畑に種を蒔き、観察し始めます。

しかし、今時の先生は実際に大根を育てたことがない事が多く、指導書を見ながら畑を準備するのですが、経験がないので、勘違いや思い込みで進めてしまい、結果、ゴボウのような大根しか作れず終わることが多いように感じます。

これは一般的には用務の仕事を超えてしまっているのかも知れませんが、私の場合、担当の教員と相談し、夏休みの終わりには肥料を撒き込んで畑を耕うんし、ビニールマルチシートを敷いて、あとは子どもたちがタネを蒔くだけという状態まで仕上げてあげていました。



種を蒔いた後は、虫のつく時期や駆除方法、間引きのタイミング、追加の肥料を撒くタイミングなど、その都度ごとに教員に知らせ、授業で子どもたちに作業させると、お店で販売されているような大根を収穫させることができます。

趣味で家庭菜園などやっている、こういった事が得意な方にとつては常識的な事でも、学校の中では皆に重宝され、とても喜ばれます。

学校ならではの作業です。

用務レンジャー ストーリー（2）

■『トンビが雷鳥を産んだ日』

教頭の机の電話がなったのは朝の職員打ち合わせの最中だった。

教員同士のその日の申し送りがなされる中、小声で教頭が電話に応対していた。

職員打ち合わせが終わったところで、教頭が私を呼んだ。

「なんだかよくわからないんだけど、お隣の幼稚園の園長さんからの電話で、用務員さんにすぐに来て欲しいって。」

「？」

「すごく慌てていて、『トンビ』がどうとか、『カラス』がどうとか言ってるんだけど、よくわからないんだ」

隣で話を聞いていた校長と教頭、私の3人は首を傾げて顔を見合させた。

「とりあえず、行ってみていいですか？」と私。

「ああ、頼みます」と校長。

私は状況が見えないまま、護身用の棒を持ち幼稚園に向かった。

お隣の幼稚園は勤務先の中学から歩いて2、3分の場所にあった。

その幼稚園の園庭には入学式や卒業式で振舞う「桜茶」用の『桜花の塩漬け』を作るのにぴったりの八重桜があり、交渉して何度か花を摘ませてもらい、出来上がった『桜花の塩漬け』を返礼したりして普段から交流を持っていた。

そんな縁で力仕事や工事など困ったことがあつたら、すぐ連絡してくれと伝えてあったのだ。

幼稚園に着いて、私は電話での状況を理解した。

園庭のはじの子ども用《手押し車》の陰で、体長40cmくらい、羽根を広げたら1m以上ありそうな『トンビ』が『カラス』の死体から内臓を引き摺り出して食事をしている真最中だった。

『トンビ』はまわりを牽制しながら『カラス』をついばんでいる。

園長が言う。

「役所に電話したんですけど、そんな事初めてでどう対応していいかわからないって言われちゃって、それで学校に電話したんです！」

私の後ろでは幼稚園の先生たちが白い防災ヘルメットをかぶり、各々ほうきやら棒やらもって腰を引けながらトンビから目を離さないように取り囮んでいる。

敷地隣の団地の屋上では10数羽の『カラス』たちが
「仲間がやられた！仲間がやられた！」と「カー！カー！、
カー！カー！」と大合唱だ。

私 「多分、脅かせば逃げますよ」

先生 「アミでも持つて来ましょうか？」

私 「いやいや、捕まえる訳じゃないので」

そんなやり取りをしていたら幼稚園の女性用務さんが
「私《手押し車》倒してみます」と持っていた棒で《手押し車》
を引っ掛けて倒した。

とたん、ビックリしたトンビがバサバサと羽根を広げて逃げ去った。

声にならない悲鳴を上げ、おののく白ヘルメットの先生たち。

「カー！カー！カー！カー！」
カラスの雄叫びも最高潮だ。

「今がチャンス」とほうきとちりとりを貰ってカラスの死体を私が片付ける。

内臓飛び散るカラスの死体に先生たちは近づけない。

「あのー、それはどうしたら…」
「あー私が持ち帰って捨てますよ」

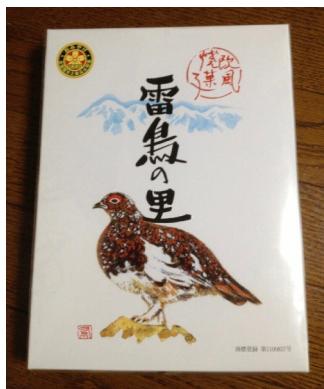
ほっとした顔をする先生たち。

カラスはゴミ袋に入れて私が自分の学校に持ち帰り処分することにした。

私自身、何をした訳ではなかったが、それが幼稚園としてはかなり有り難かったようだった。

私は「用務レンジャー」
幼稚園をトンビから救った男（？）。
幼稚園の先生のヒーローだ。
そうなのか？　いや、きっとそうに違いない。
多分そうだ。そういうことにしておこう……。

午後、私宛に幼稚園からお礼の菓子が届いた。
園長が先日、長野の研修先で購入したお土産ということだった。



お菓子を見て、思わず吹き出した。
『トンビが雷鳥を産んだ』冗談のような話。

職員皆で、大変美味しく頂きましたとさ。

用務員の一年（後半）

■ 十月



秋は行事の季節です。

運動会もこの時期に開催されることが多いように思います。

夏休みが明けてから、我々用務員は毎日校庭や敷地内の除草に追われます。夏の間に大きく育ってしまった雑草を機械や手作業で刈っていきます。

運動会当日までに保護者や地域の方々がいらしても「綺麗な学校だなあ」と思っていただける状態にしていくのが、プロの用務員としての責任だと思って仕事をしています。

■十一月



用務のメインの仕事である、清掃についてここまで触れてなかつたので、ここで書こうと思います。

我々用務にとって学校内の清掃は10のうち7割を占める仕事だと思います。

勤務時間中、多くの時間、校内の清掃に従事しています。トイレや廊下、床だけではなく壁面、天井、備え付けの機器にいたるまで、様々なものが清掃の対象です。

清掃というものは毎日コツコツやっていれば、ひとつひとつ短時間で済みますが、何日も間を開けてしまうと、汚れが酷くなり時間のかかるものとなってしまいます。

学校用務の場合、取り組む仕事の幅が広いので、確立されたルーチンを手順通りやっていると作業が終わらなくなります。

除草と校内清掃のバランス、落ち葉掃きと校内清掃のバランスなど、全体の仕事量を考えながら、作業項目を日々検討しつつ、業務を遂行していくテクニックも必要です。

それを考えながら行動することが、用務という仕事の醍醐味でもあると言えるかも知れません。

■ 十二月



最近は夏の暑さが長引き、その分秋は短くなり、一気に寒くなる傾向があります。その影響で落ち葉の落ちる時期は近年遅れがちになっていると感じます。

時期をずらして落ちていた落葉樹も集中して葉を落とすことになります。

そんな時期は、掃いた先から葉っぱが落ちてくるので、どこから掃き始めたかわからなくなる程です。

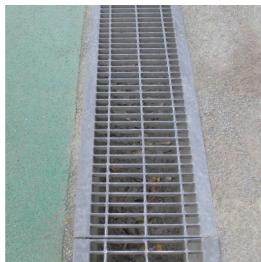
学校にもよりますが、家庭用の45リットルのゴミ袋で換算すると最低でも10袋以上、多い時はその倍以上の落ち葉を毎日掃き集めることになります。



場所によって、熊手や竹箒などを使い分け、黙々と落ち葉を片付けます。

大変な作業ですが、日々達成感の味わえる冬の大事な仕事となっています。

■ 一月



落ち葉も一段落し、校庭の掃き清掃も落ち着いた頃。
校庭のU字溝清掃を行います。

ビル街と違い、学校は校庭が砂地のことが多く、雨によってU字溝に砂が堆積し、校庭の樹木の落ち葉が入り込みます。

そのままにしておくと、集中豪雨の時などに雨水が流れず、校庭が冠水してしまうことがあります。

砂や落ち葉は何年も溜めてしまうと、作業が重労働となってしまうので、毎年こまめに除去清掃する必要があります。

複数人用務がいる学校では、皆で協力しながら、人数が少ない学校では、身体に負担がかからないように毎日数メートル分だけ清掃するようにして、コツコツと掃除していきます。

これもやり切った後に達成感を味わえる仕事です。

■ 二月

落ち葉もU字溝清掃も終わり、雑草も育たない2月。

一年の中で一番落ち着いて仕事のできる時期です。

私はこの時期に学校の修繕や頼まれた木工作業などをよく行っていました。

こういう仕事が好きな人にとっては、力を発揮できる良い機会となります。

職員室前に集成材を使った棚を一から作ってみたり…。



受付表示の看板を手彫りで彫ってみたり…。



清掃の合間を見てする工作は楽しみの一つです。

再就職でこの仕事に入ってきた人の多くは様々な特技を持っています。裁縫が得意とか、工作の得意な方とか。色々な得意分野を活かすことができるのも学校ならではのことだと思います。

■ 三月

一年の締めくくりの月です。

卒業式の準備、来年度の準備と仕事に追われます。

中野信子さんの著書『新版 科学がつきとめた「運のいい人」』(サンマーク出版) の中にこのような話がありました。

—以下引用—

「大阪大学大学院医学系研究科の大平哲也准教授（当時）の論文によると、子どもは1日平均300回笑いますが、大人は17回、70歳以上になると2回しか笑わなくなるそうです。」(P63~)

—引用終わり—

皆さんは今どのくらい笑っていますか？

学校にいると笑う機会が増えるように感じています。身近に子どもたちと関わっているからでしょうか。

この仕事は続けていると体力もついてきます。また単純作業ばかりではないので頭も使います。

昨今、公立小中学校の用務業務の民間企業への委託化が進み、退職後の第二の人生として用務という職業を選び、従事していらっしゃる方が数多くおられます。

清掃がメインの業務となるため、敬遠されがちな職業ですが、マンションやビルの清掃などとは違い、子どもたちに接しながら日々を過ごす「用務員」は、他にはない楽しさも経験できる職業です。もしもこの本を、退職後何か仕事をしようかな…と検討している方が読んでいらっしゃるのであれば、第二の人生の仕事で用務職はとても良い選択なのではないかと私個人は思っています。



用務レンジャー ストーリー（3）

■ 『クリスマスイブの出来事』

クリスマスイブ。インフルエンザでの学級閉鎖も重なり、子どもたちの姿も比較的少ない朝。

いつものように箒とチリトリを持ち、ネコ車（手押し一輪車）に小型ブロアーとゴミ袋を載せて学校外周の道を掃除しながら回っていると、学校の隣の団地の敷地に赤い古ぼけた車がゆっくり入っていくのが見えた。

車は敷地に入ってすぐ止まり、中からずんぐりむっくりとした体型の白い立派なひげをたくわえた老男性が運転席から降りたった。

車もかなり古いが、着ている洋服もかなり古びた様相で、大変失礼だが一見、車上生活者のように見えた。

歩き方もどこか疲れた雰囲気。

どうしたのかな？と思っていると私の方に向かってまっすぐ老人が歩いて来る。

ん？何かあったかな？

団地の人なのかな？

またウチの子どもたちが何かやらかしたのかな？苦情かな？

そう思っていると、私の前にたどり着いた老人が口を開いた。

ところどころ歯の抜けた、味噌っ歯だらけのその口から出た言葉は、

「いつも団地の方まで掃除してくれてありがとう」

「これ食べて」

だった。

老人は人懐っこい笑顔で小さなコンビニ袋に入ったスナック菓子を差し出した。

私は目をパチクリ、驚きつつ
「いえいえ、とんでもない。ありがとうございます！」と答え、
袋を受け取った。

ニコニコしながら後ろ手に手を上げながら、車に戻る老人。
もう一度後ろから大きな声で、「ありがとうございます！」と、
スナック菓子の袋を持ったまま、声をかけると老人は車の中から
手を振り、車は団地の奥へ消えていった。

あまり、見かけない人だったな…。

なんか、ありがたいなあ…。自分で食べるつもりで買ってきたん
じゃないのかなあ…。

老男性の心遣いが、とても嬉しく、ほんわかとした気持ちになっ
た。

そこで、ふと思った…。

ん?
あれってもしかして「サンタさん」の化身だったんじゃないだろ
うか?

おりしも今日はクリスマスイブ。
きっと、私の労をねぎらいに来てくれたのだ。
あの白い立派な髪。その体つき。
赤い洋服の代わりに不自然な赤い車でやってきた老人。
うん、そうだ。
そう思うことにしよう。笑
それが一番ワクワクする結論だ。

今年は、なんと良いクリスマスなんだろう。

私は「用務レンジャー」
サンタクロースの化身に祝福された男。
サンタさん、ありがとう。
このスナック菓子を励みに、これからも頑張ろう。

この先、そのスナック菓子を見るたびに思い出すことになるだろう、クリスマスイブの出来事。



おしまい

あとがき

なんとなく学校の用務員がどのような職業か、ご理解いただけたでしょうか？

お年を召した方からすると「用務員」＝「小使いさん」という言葉が頭に浮かぶかもしれません。

古くは「使丁」「校僕」と呼ばれ、学校内のかまごました色々な用事をする「雑用係」というイメージを持っておられる方もおられると思います。実際、昔はそういう職業でした。

それが現在は「雑用」を超えて様々な業務分野を横断しながら、学校運営を手助けする職業へと変化してきました。

呼び名も地域によって「用務員」「校務員」「用務主事」「技師」「技能員」「作業員」「学校現業員」など様々あるようです。

我々用務員は、樹木の剪定は本職の造園業の職人さんには敵いません。電気工事は本職の電気屋さんには敵いません。ペンキ塗りも本職の塗装屋さんには敵わないでしょう。

しかし樹木を剪定できる塗装屋さんが、トイレをピカピカにできる建具屋さんがいるかというと、いかがでしょう？

幅広い仕事内容をこなしている「雑用のプロ」が「用務員」なのです。



フェイスブック創業者ザッカーバーグがハーバード大学の卒業式の祝辞でも紹介したNASA（アメリカ航空宇宙局）の清掃員の有名な話があります。

1961年、アメリカのケネディ大統領は10年以内に人類を月面に到達させる「アポロ月面着陸計画」を発表しました。世界中の人々がその壮大な計画に夢や希望を抱きました。残念ながらケネディ大統領は、その後凶弾に倒れてしまいますが、その志は次のジョンソン大統領に引き継がれました。そのジョンソン大統領とNASA清掃員とのエピソードです。

ジョンソン大統領がNASAに訪問した時、一人の清掃員がとても楽しそうに床を磨いているのを見かけました。

他のスタッフが、仕事だからとつまらなそうに掃除をしているのに、その清掃員だけは様子が違います。ジョンソン大統領はその姿に興味を惹かれ、

「あなたは何をしているのですか?」と尋ねました。

清掃員は答えました。

「大統領、私は人類を月に運ぶ手伝いをしているんです」

この逸話は、清掃員が通路を箒で掃いていたり、トイレを掃除していたり、いろいろなパターンがあるのですが、結末の質問と答えは同じです。

私たち用務の仕事は清掃と環境整備です。

しかし、NASAの清掃員の言葉を借りるなら、私たち用務員は、学校という場所でこの仕事を通して、「未来の有望な社会人を育てる手伝いをしている」ことになります。

そのくらいの気概と目標を持って、仕事ができたらいいなと私は思っています。

これから用務業務をしよう考えている方がいるとしたら、そんな皆さんにも胸を張って仕事をしていただけたらと思っています。



最後までこの本をお読みいただきありがとうございました。

この本の内容は私個人が用務の仕事を通じて、経験したことを紹介したものです。地域によって用務の仕事の範疇も変わってくるので、同じような環境となるかは分かりません。その点はご承知おきください。

「用務レンジャー」こと須藤 彰

著者紹介

須藤 彰 (すとう あきら)

1963年生まれ。法政大学文学部卒。

元 都内公立小学校用務技能長。
用務員になる前の職業はフリーランスのヘアーメイク兼イベント屋。

大学卒業後、昼間、美容室で見習いをしながら夜間美容学校へ通い美容師資格取得。独立後はフリーランスのヘアーメイクとして、メイクスクール講師、舞台を主に活動する。その後イベントの企画制作に関わり、仕事の比重をイベントへと移し仕事の幅を広げていく。

ヘアーメイク時代の仕事としては「ミックジャガージャパンツアーナ」「エアロスマミス日本公演」など外国ミュージシャンの衣装管理やメイクアップ、その他、ビデオシネマ、複数のメイクアップスクールでの講師など担当。イベント関連では東京ドームでのイベントの舞台進行や「東京モーターショー」や地方行政イベントでの企業ブース運営、文化庁主体で開催される「国民文化祭」の企画・制作進行。「長野オリンピック」では会場台本・プログラムディレクションを担当した。

2000年、バブル崩壊の影響で仕事が激減し、図らずも業界を引退。

用務員へと転職する。
その後、四半世紀、学校用務員として従事。
転職直後は仕事への偏見があり、一時迷いもあったが、徐々に仕事の面白さに気づき用務員のプロを目指すことになる。

学校独特の環境を考慮した清掃テクニックや、樹木剪定、除草などの環境整備、施設の諸々の修繕、塗装や木工製作、電気工事など、広く知識の幅を広げ、自校だけではなく他校（98校）の用務

業務の管理や指導なども行なっていた。
令和6年3月末をもって定年退職。

現在、日本初フリーの用務員として独立。
「日本中の学校をキレイに、安全に。そして子どもたちを笑顔に」
を自らの使命として、各地の学校や用務受託会社の用務業務のコン
サルティング、研修、セミナー講師、実務応援をする活動を開始。

ホームページ <https://youmu.pro>

本書は「学校の用務員」を知らない方たちを対象とした業務紹介
本である。

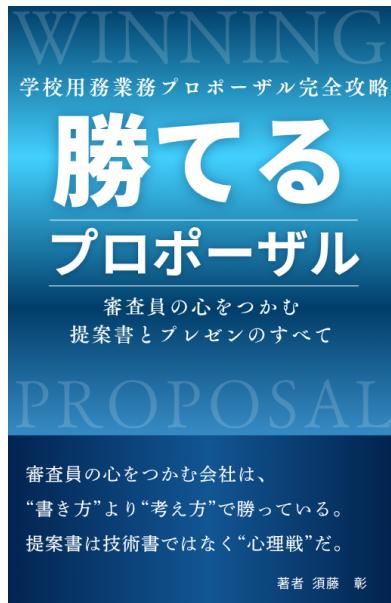
なお、本書とは別に用務業務初心者に向けた、用務の雑学知識を
まとめた「用務員の知恵袋」(上巻)(下巻)をAmazon Kindleで発売
中。

(上) <https://www.amazon.co.jp/dp/B0F5GSS96F>
(下) <https://www.amazon.co.jp/dp/B0F5GRLMZ2>



また、行政の公募する学校用務業務プロポーザルで受託を目指す事業者に向けた

「勝てるプロポーザル 学校用務業務プロポーザル完全攻略: ~審査員の心をつかむ提案書とプレゼンのすべて」を10月に上梓。



こちらもAmazon Kindleで発売中。

<https://www.amazon.co.jp/dp/B0FVF7QDYM>



用務員のすすめ (youtube配布版)

著者 : 須藤 彰

発行 : 2025年8月1日 (初版)

2025年10月11日 (2版)

本書の内容を無断で複写・転載することは、
著作権上の例外を除き禁じられています。